

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

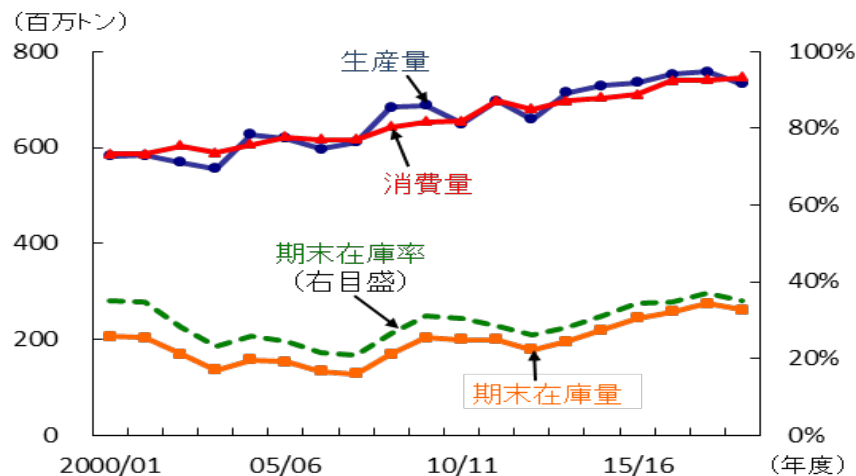
・前月に比べ、豪州、カナダ等で下方修正、ロシア等で上方修正されたものの、前年度を下回る見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、豪州での生産減による輸出余力の低下等から下方修正された。
 ・前年に比べ、米国等で増加もロシア等で減少し、前年度を僅かに下回る見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



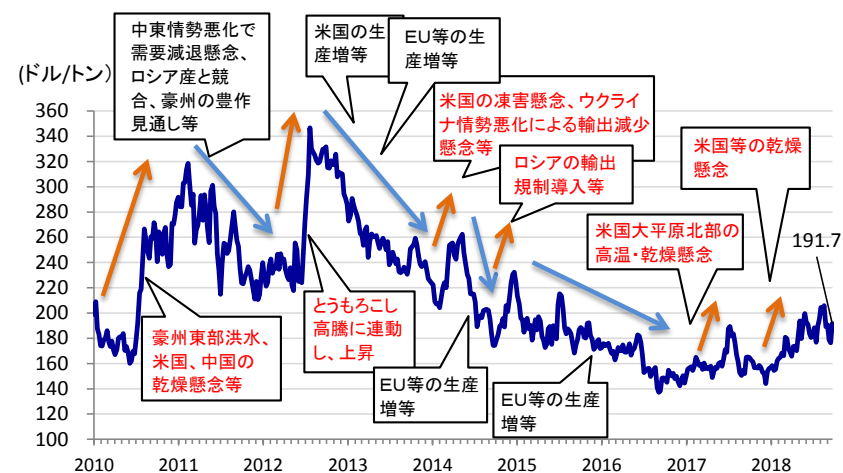
注：USDA「PS&D」(2018.9.12)をもとに農林水産省で作成。

◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	752.1	758.3	733.0	3.4	▲ 3.3
消費量	739.2	741.0	746.1	2.3	0.7
うち飼料用	147.1	144.4	140.7	2.3	▲ 2.5
輸出量	183.3	181.4	181.4	▲ 2.5	▲ 0.0
輸入量	179.1	179.6	179.1	▲ 2.6	▲ 0.3
期末在庫量	257.1	274.4	261.3	2.3	▲ 4.8
期末在庫率	34.8%	37.0%	35.0%	0.2	▲ 2.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」(12September 2018)



注：シカゴ商品取引所による 2018 年 9 月 21 日までの毎週金曜日の期近価格である。

(3) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によると、春小麦の収穫率は9月16日時点で、97%となった。

生産量は、冬小麦 32.4 百万トン、春小麦 18.7 百万トンの 51.1 百万トンと前月からの改訂はなく、2017/18 年度より 7.8%増加する見込み。種類別には、冬小麦が 6.1%減、春小麦が 47.5%増、デュラム小麦が 33.7%増である。品質は、冬小麦、春小麦ともタンパク含有量及び容積重が前年度より良い状況。

また、2019/20 年度の冬小麦の作付けが開始されており、作付意向面積に対する作付進捗率は 23 日時点で 28%と前年度(22%)を上回っている。

< カナダ >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によると、生産量は、収穫面積が高水準となるものの、主要産地のアルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州の多くで引き続き乾燥天候により単収が減少すると見込まれることから、前月より 1.0 百万トン下方修正され、31.5 百万トンの見込み。

また、生産量の減少で飼料用需要が 0.4 百万トン下方修正された。

カナダ農務省(AAFC)9月報告によると、例年を下回る降水量で単収が低下するため、生産量は前月に比べ 1.3 百万トン下方修正され 29.0 百万と、前年度より 3.3%減少する見込み。

品種別では、デュラム小麦を除く小麦は前月より 0.5 百万トン下方修正され 24.0 百万トン、デュラム小麦も前月より 0.8 百万トン下方修正され 5.0 百万トン。

主要産地(平原三州)の各州政府の報告によると、9月中旬現在、春小麦の収穫進捗率はサスカチュワン州では好天に恵まれ 46%、アルバータ州では降雨で作業が遅れ 31.1%、マニトバ州では 95%となっている。

小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.1	-	7.8
消費量	31.9	29.3	31.4	-	6.9
うち飼料用	4.4	1.3	3.3	-	147.7
輸 出 量	28.6	24.5	27.9	-	13.8
輸 入 量	3.2	4.3	3.7	-	▲ 14.3
期末在庫量	32.1	30.0	25.5	-	▲ 15.0
期末在庫率	53.1%	55.6%	43.0%	-	▲ 12.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.21	16.01	-	5.3
単収(t/ha)	3.54	3.11	3.19	-	2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.5 (29.0)	▲ 1.0	5.1
消費量	10.8	9.2	9.0 (8.1)	▲ 0.4	▲ 1.7
うち飼料用	5.8	4.3	4.0 (3.6)	▲ 0.4	▲ 6.1
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.2)	▲ 0.5	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.0)	-	-
期末在庫量	6.9	6.2	5.1 (5.0)	0.1	▲ 17.0
期末在庫率	22.2%	19.9%	15.5% (16.5%)	0.8	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.80 (9.83)	0.10	9.1
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (2.95)	▲ 0.14	▲ 3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(17 September 2018)

<豪州>

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、豪州西部のウエスタンオーストラリア州では作柄は良好であるものの、主にニューサウスウェールズ州やクイーンズランド州東部で作付時期から乾燥天候が続き、収穫面積が減少したことから、生産量は前月に比べ2.0百万トン下方修正され20.0百万トンと、前年度より6.1%減少する見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)の9月報告によると、生産量は前回6月報告から2.8百万トン下方修正され19.1百万トンと、前年度を10.1%下回る見込み。豪州で生産量が20.0百万トンを下回るのは11年ぶりとなる。

州別には、ウエスタンオーストラリア州が1.5百万トン上方修正され9.6百万トン(前年度対比21.0%増)となったものの、干ばつの影響が大きいニューサウスウェールズ州は2.8百万トン下方修正され2.5百万トン(同43.9%減)と見込まれている。なお、9月中旬の同国西部での降霜の影響は、今のところ、大きくないと見込まれている。

【貿易情報・その他】生産減となった豪州東部の食用、飼料用の需要を同国西部の小麦で補っていることから、国内需要と輸出向け需要が競合し、輸出量は、前月に比べ2.0百万トン下方修正され、14.0百万トンになる見込み。この輸出量は過去10年間で最低である。

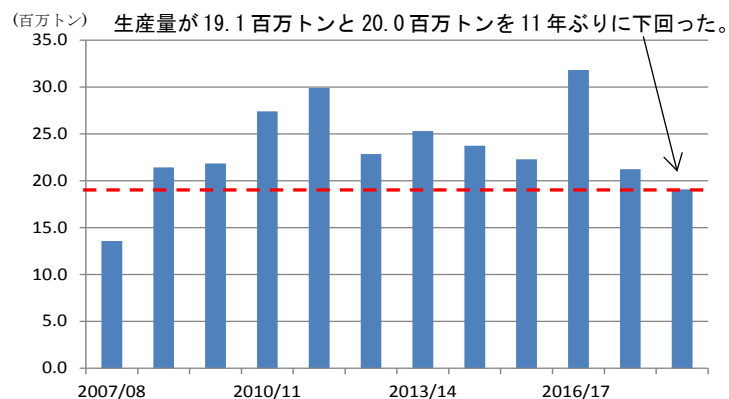
小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	31.8	21.3	20.0 (20.5)	▲ 2.0	▲ 6.1	
消費量	7.5	7.3	7.6 (6.6)	▲ 0.5	4.4	
うち飼料用	4.0	3.8	4.1 (3.2)	▲ 0.5	7.9	
輸出量	22.6	14.5	14.0 (15.5)	▲ 2.0	▲ 3.4	
輸入量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-	
期末在庫量	5.7	5.4	4.0 (3.6)	1.0	▲ 26.9	
期末在庫率	19.0%	24.8%	18.3% (16.1%)	6.0	▲ 6.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	11.00 (11.96)	▲ 1.00	▲ 10.2	
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.82 (1.71)	▲ 0.01	4.6	

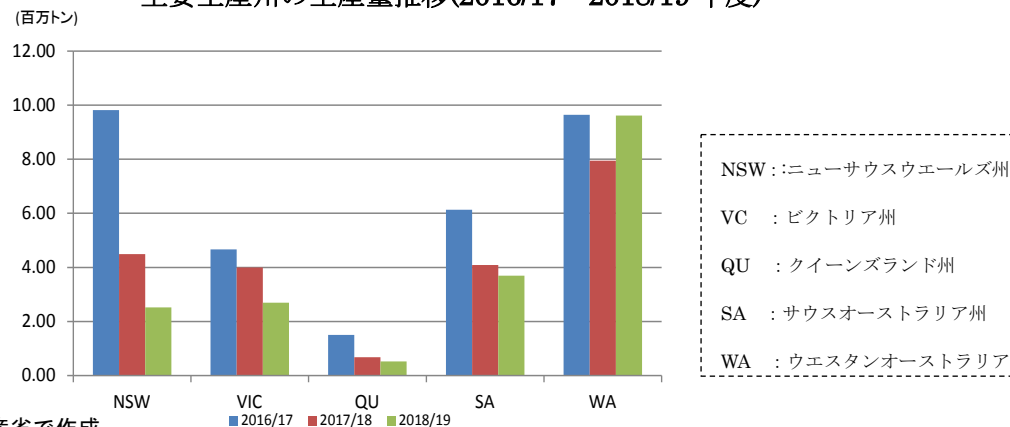
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC 「Grain Market Report」(23 August 2018)

小麦生産量の推移(2007/08～2018/19年度)



注：豪州農業資源科学局 ABARES「CROP REPORT」(2018. 9. 11)をもとに農林水産省で作成。

主要生産州の生産量推移(2016/17～2018/19年度)



< EU >

【生育・生産状況】7月に引き続き、スペインや南部のEU諸国では良好な状態となったが、北部ヨーロッパ（英国、オランダ、ドイツ、ポーランド等）では降雨が非常に少なく、高温・乾燥状態となった。収穫は、例年よりも早く8月末に終了したが、単収はイタリア、スペインを除いて多くの地域で低かった。

米国農務省(USDA)によれば、生産量は137.5百万トンと前月からの改訂はなく前年度に比べ9.3%の減少となった。

消費量は、豊富な期首在庫量と輸入量の増加により、前月に比べ飼料用途が1.0百万トン上方修正され、53.0百万トンとなる見込み。北部ヨーロッパの広範囲の地域で牧草が厳しい高温乾燥にさらされたことから、小麦、とうもろこしが飼料用途に用いられた。

なお、今後、降雨により土壌水分が回復すれば、2019/20年度の作付面積は、現在、小麦価格が高いこと、引き続き乾燥天候で菜種の作付けができないこと等から、増加すると見込まれる。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国中央气象台によると、8月下旬現在、春小麦は成熟段階にある内モンゴル中部、新疆北部等の一部を除き、収穫はすでに終了している（冬小麦は6月に収穫終了）。

中国糧油情報センターによると、2018/19年度の生産量は前月に比べ12.2百万トン上方修正され134.7百万トンとなるものの、前年度に比べ3.5百万トン減少する見込み。

なお、2019/20年度の冬小麦の播種が山西、甘粛省で開始された。

【貿易情報・その他】物資備蓄局等によると、生産農家の所得保障等のため、8月末までに主産地で対前年度1.3百万トン減の4.3百万トンの小麦が買い上げられた。この買上量の減少は、3等以下の等級が買い上げ対象から除外されたこと等による。

小麦—EU（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.7	137.5 (137.6)	-	▲ 9.3
消費量	128.0	130.4	125.0 (128.5)	1.0	▲ 4.1
うち飼料用	56.0	58.0	53.0 (55.2)	1.0	▲ 8.6
輸 出 量	27.4	23.3	23.0 (21.2)	-	▲ 1.2
輸 入 量	5.3	5.8	6.0 (6.1)	0.5	3.1
期末在庫量	10.7	14.6	10.1 (15.0)	▲ 0.1	▲ 30.9
期末在庫率	6.9%	9.5%	6.8% (10.0%)	▲ 0.1	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.23	26.32	25.63 (25.59)	-	▲ 2.6
単収(t/ha)	5.34	5.76	5.36 (5.4)	-	▲ 6.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」 (12 August 2018)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」 (30 August 2018)

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.9	129.8	128.0 (122.5)	-	▲ 1.4
消費量	118.5	117.0	122.0 (119.4)	-	4.3
うち飼料用	16.5	13.5	17.0 (14.0)	-	25.9
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.1)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	4.5 (4.3)	-	12.5
期末在庫量	111.1	126.8	136.1 (116.2)	-	7.3
期末在庫率	93.1%	107.5%	110.5% (96.4%)	-	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.19	23.99	23.70 (23.83)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	5.33	5.41	5.40 (5.14)	-	▲ 0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 September 2018)
IGC 「Grain Market Report」 (23 August 2018)

< ロシア >

【生育・生産状況】

米国農務省(USDA)によると、ロシア東部のボルガ地域からウラル、シベリア地域で春小麦が登熟期から収穫期を迎えている。天候は良好で、十分な降雨により単収の上昇が見込まれる。生産量は、前月に比べ、収穫面積の増加と単収の上昇により 0.5 百万トン上方修正され、20.0 百万トンの見込み。

他方、冬小麦は概ね収穫が終了した。生産量は前月に比べ収穫面積の増加及び北コーカサス地方での単収の上昇により 2.5 百万トン上方修正され、51.0 百万トンの見込み。

ロシア全体の小麦生産量は、前月に比べ 3.0 百万トン上方修正され、71.0 百万トンの見込み。

2019/20 年度の冬小麦の作付けが 8 月下旬から開始された。9 月 12 日時点の冬小麦を含む冬穀物の作付け進捗率は 46%であり、前年度の 33.5%を上回っている。

【貿易情報・その他】消費量は、生産量及び期首在庫量の上方修正と家畜飼養頭数の上昇から飼料用消費量が前月に比べ 2.0 百万トン上方修正された。

一方、輸出量は、主に輸出港から離れた東部地域で生産量が上方修正されたことから、前月からの上方修正は行われていない。ロシアの小麦輸出量は、引き続き世界の第一位を占めている。

なお、輸出規制については、生産量の増加等により需給が改善されており、ロシア農業省は 9 月 6 日、小麦輸出に関税を課す考えはないと改めて表明した。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位:百万トン)

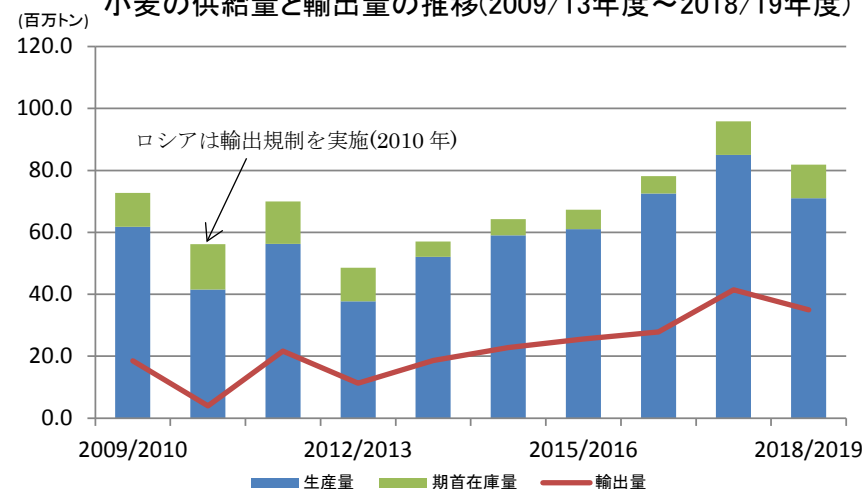
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	71.0 (67.0)	3.0	▲ 16.5
消費量	40.0	44.0	40.5 (41.7)	2.5	▲ 8.0
うち飼料用	17.0	21.0	18.0 (18.0)	2.0	▲ 14.3
輸 出 量	27.8	41.4	35.0 (30.7)	-	▲ 15.5
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	▲ 0.1	6.4
期末在庫量	10.8	10.9	6.9 (10.0)	2.1	▲ 36.8
期末在庫率	16.0%	12.7%	9.1% (13.8%)	2.5	▲ 3.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.00 (26.10)	0.50	▲ 4.9
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.73 (2.57)	0.06	▲ 12.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)、
IGC 「Grain Market Report」(23 August 2018)

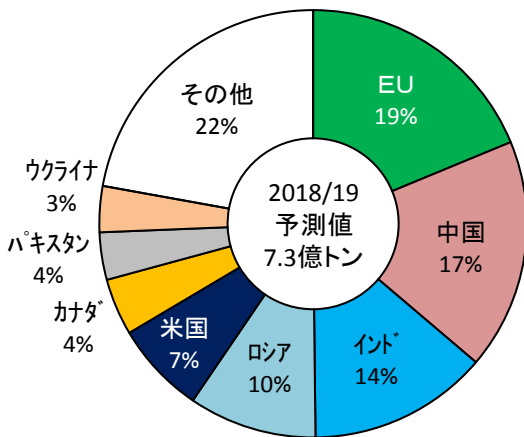
小麦の供給量と輸出量の推移(2009/13年度～2018/19年度)



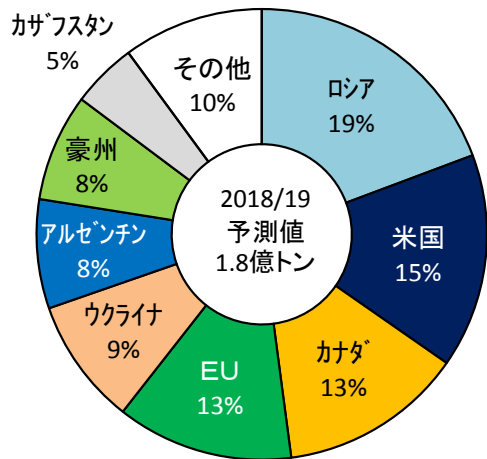
資料：USDA「PS&D」(2018.9.12)をもとに農林水産省で作成。

資料 世界の小麦生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年9月現在)

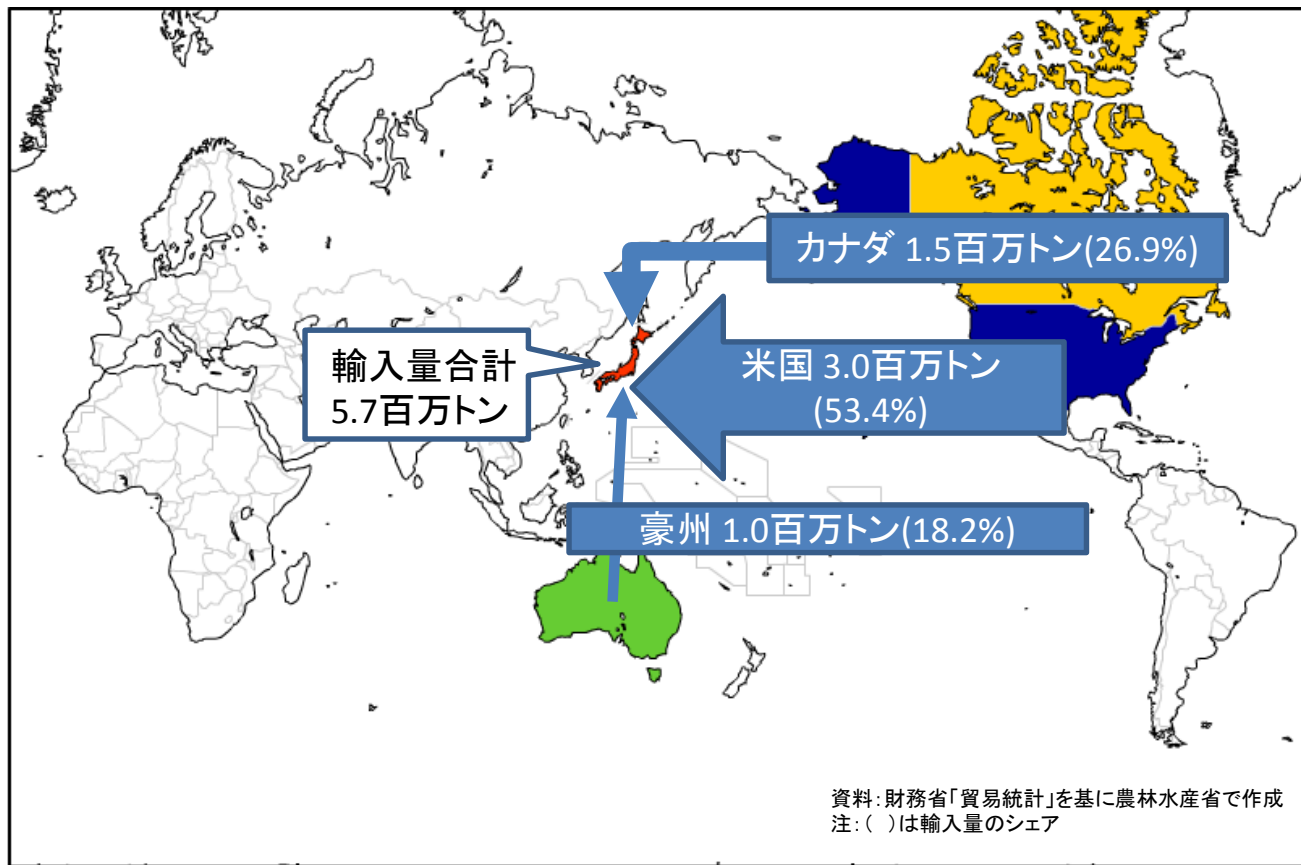
世界の小麦生産量



世界の小麦輸出量

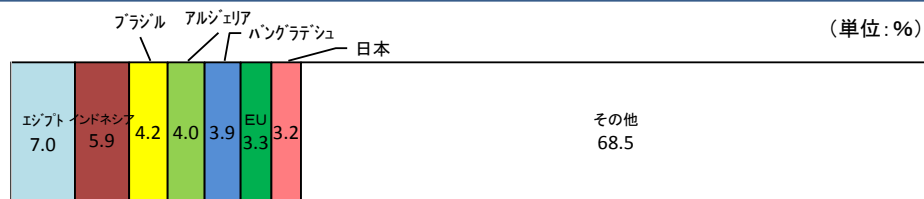


日本の国別小麦輸入量(2017年)



<参考>世界の小麦輸入国 (2018/19)

—世界の輸入量の3割を上位7カ国が占める—



日本の小麦生産量
 2015年: 1.00百万トン
 2016年: 0.79百万トン
 2017年: 0.91百万トン
 (資料: 農林水産統計)

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国、EU 等での単収の増加により上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国、EU 等の飼料需要の増加により上方修正された。

輸出货量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

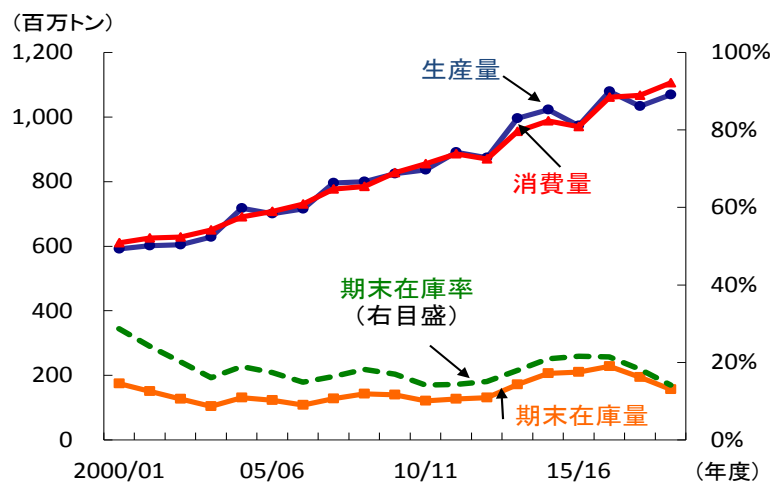
・前月に比べ、米国での生産増加による輸出余力の増加により上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

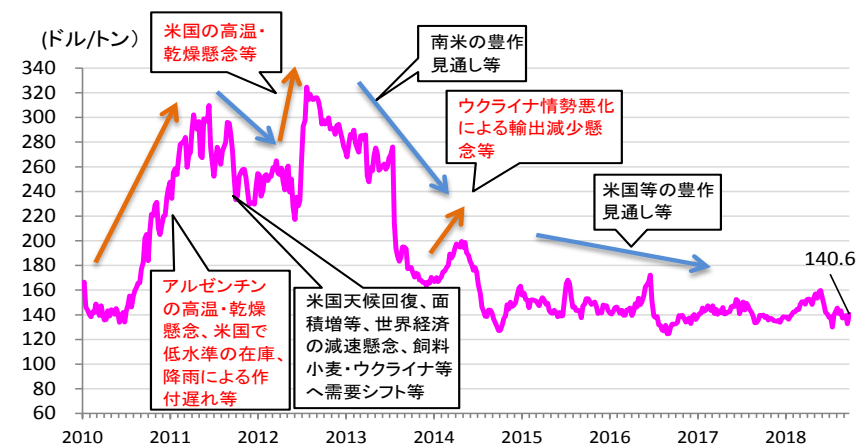
(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.6	1,033.6	1,069.0	8.0	1.9
消費量	1,060.7	1,067.3	1,106.1	7.2	2.1
うち飼料用	633.1	652.6	676.9	5.5	2.6
輸出货量	160.1	146.2	161.7	2.1	4.6
期末在庫量	227.8	194.2	157.0	1.5	▲ 18.3
期末在庫率	21.5%	18.2%	14.2%	0.0	▲ 4.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 September 2018)



資料: USDA 「PS&D」 (2018. 9. 12) をもとに農林水産省で作成。



注: シカゴ商品取引所による2018年9月21日までの毎週金曜日の期近価格である。

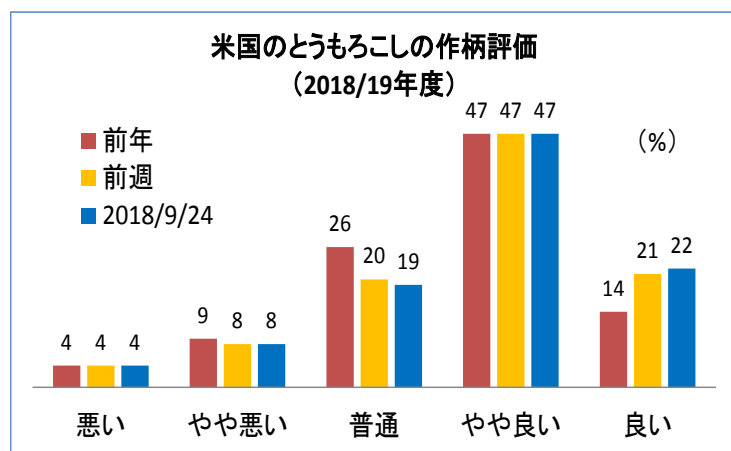
(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】生産量は、米国農務省（USDA）により単収予測が上方修正されたことから、前月予測をさらに上回る史上二番目の 376.6 百万トンの見込み。9 月 23 日時点で、すでに収穫が開始され、主要産地の収穫率は 16%（過去 5 年平均は 11%）である。生育状況（良い、やや良いを足したもの）についても、前年度よりも良好である。

【需要状況】飼育頭数の増加のため飼料用需要が前月より上方修正され、消費量は上方修正された。

【貿易情報・その他】輸出力は、競争力のある価格のため、米国農務省（USDA）予測では、前月より更に上方修正され、61.0 百万トンの見込み。



資料：USDA Crop progress 2018.09.24

とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	376.6	6.1	1.5
消費量	313.8	317.8	322.7	1.9	1.6
うち飼料用	139.0	138.4	141.6	1.3	2.3
エタノール用等	138.0	142.2	143.5	0.6	0.9
輸 出 量	58.3	61.6	61.0	1.3	▲ 1.0
輸 入 量	1.5	1.0	1.3	-	24.5
期末在庫量	58.3	50.9	45.1	2.3	▲ 11.4
期末在庫率	15.7%	13.4%	11.7%	0.5	▲ 1.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.09	-	▲ 1.1
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.38	0.18	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)

とうもろこし—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	32.0	41.0 (48.3)	-	28.1
消費量	11.2	11.9	12.0 (20.1)	0.4	0.8
うち飼料用	7.5	8.0	8.0 (15.5)	0.5	-
輸 出 量	26.0	23.0	27.0 (29.0)	-	17.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	2.4	5.5 (5.8)	▲ 1.5	130.7
期末在庫率	14.2%	6.8%	14.1% (11.2%)	▲ 4.0%	7.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	4.90	5.10	5.00 (6.45)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	8.37	6.47	8.20 (7.49)	-	26.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC「Grain Market Report」(23 August 2018)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社（CONAB）によると、2017/18年度の作付面積は前年度と比較して5.4%減少し、収穫量は、前年度と比較して16.5百万トン減少（16.8%減少）と予測されている。特に生産量の減少が顕著だったのは南部地域で、乾燥気候の影響で、28.7%減少となっている。

2018/19年度については、8月から一部地域で夏とうもろこしの作付けが始まっている。国際穀物理事会（IGC）によると、2018/19年度の実生産量は、前年度15.3%増の93.8百万トンである。

【貿易情報・その他】ブラジルの主な輸出先は、イラン、スペイン、エジプト等であるが、2017/18年度の実生産量が減少していることから、輸出量は減少。国内需要に対しては、生産量の減少や、国内輸送費高騰により、パラグアイ、アルゼンチンからの輸入を増やしている。

< 中国 >

【生育・生産状況】天候に恵まれ、主産地における生育状況は、平年より良好であり、乳熟期から成熟期に入っている。国家糧油情報センターの8月予測によると、栽培面積は前年と比べ、0.32%増加の35.6百万ヘクタール、生産量は0.28%増加の216.5百万トンの予想である。

【需要状況】農業農村部の見通しによると、2018/19年度では、国内需要は生産を上回り、期末在庫は減少する見通しである。国家備蓄とうもろこしの競売が続いているため、国内価格は比較的安定している。

【貿易情報・その他】最新の中国税関統計によると、7月単月の輸入量は前年より減少したものの、2018年1～7月とうもろこし累計輸入量は、255万トンで、去年同期比55%増となった。

とうもろこし—ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割）

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	98.5	82.0	94.5 (93.8)	-	15.2
消費量	60.5	64.5	66.5 (66.3)	-	3.1
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (53.0)	-	1.8
輸 出 量	31.6	22.0	29.0 (30.0)	-	31.8
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.5)	0.3	-
期末在庫量	14.0	10.5	10.5 (6.5)	0.3	-
期末在庫率	15.2%	12.2%	11.0% (6.7%)	0.6	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.50 (17.23)	-	5.4
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.40 (5.45)	-	9.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC「Grain Market Report」(23 August 2018)

とうもろこし—中国

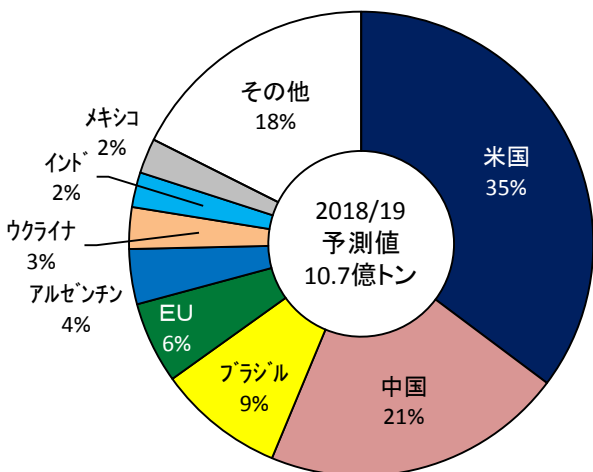
（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	219.6	215.9	225.0 (220.8)	-	4.2
消費量	232.0	241.0	251.0 (246.2)	-	4.1
うち飼料用	162.0	167.0	174.0 (152.0)	-	4.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.2)	-	-
輸 入 量	2.5	4.0	5.0 (3.0)	-	25.0
期末在庫量	100.7	79.6	58.5 (166.1)	-	▲ 26.5
期末在庫率	43.4%	33.0%	23.3% (67.4%)	0.0	▲ 9.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.77	35.47	36.50 (35.70)	-	2.9
単収(t/ha)	5.97	6.09	6.16 (6.19)	-	1.1

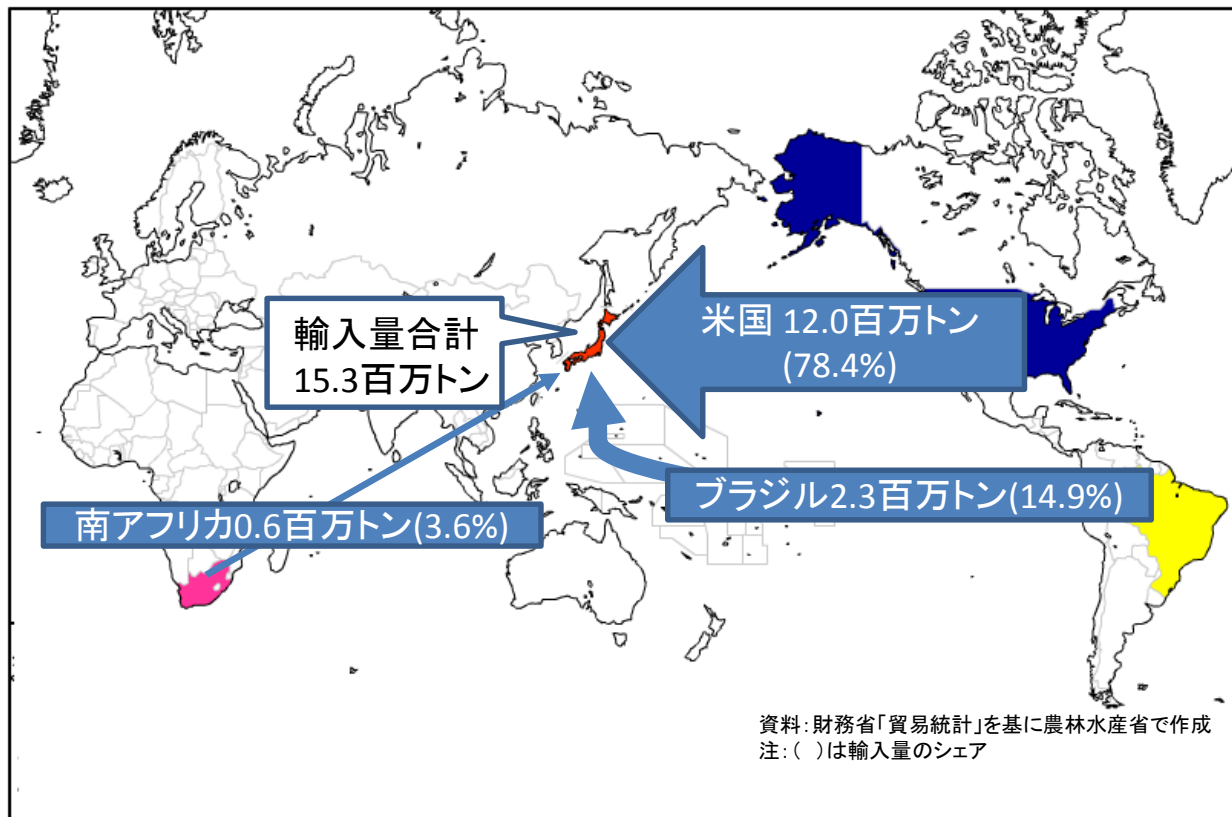
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC「Grain Market Report」(23 August 2018)

資料 世界のとうもろこし生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年9月現在)

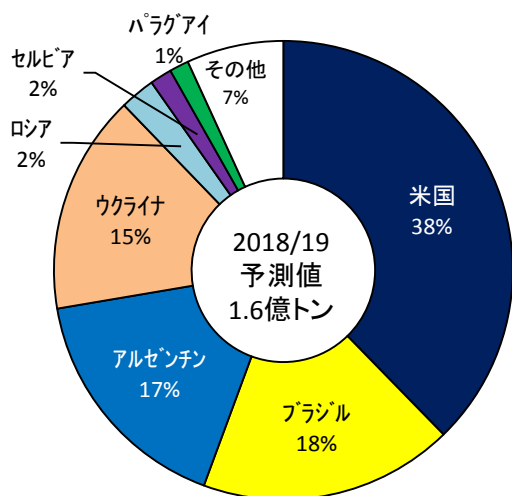
世界のとうもろこし生産量



日本の国別とうもろこし輸入量(2017年)



世界のとうもろこし輸出量



＜参考＞世界のとうもろこし輸入国 (2018/19)
—日本は世界第3位のとうもろこし輸入国—

(単位: %)



3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、中国の単収の下方修正等により下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、インドで消費量の上方修正等により上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

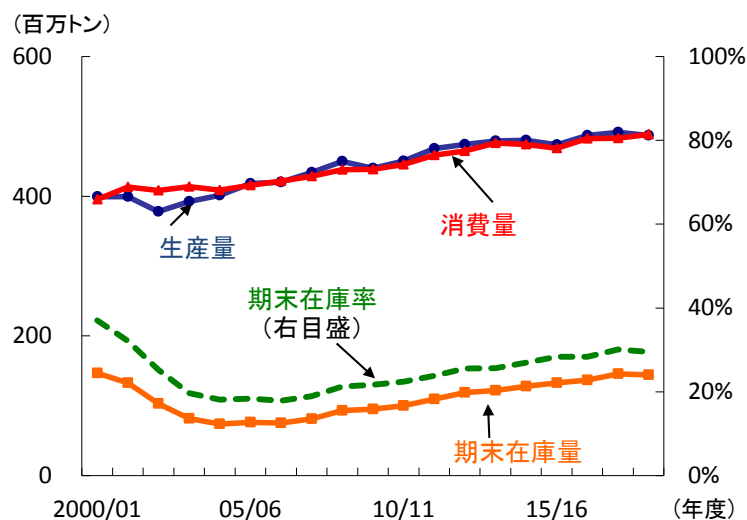
・前月に比べ、インドの単収の上方修正による生産量の上方修正から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

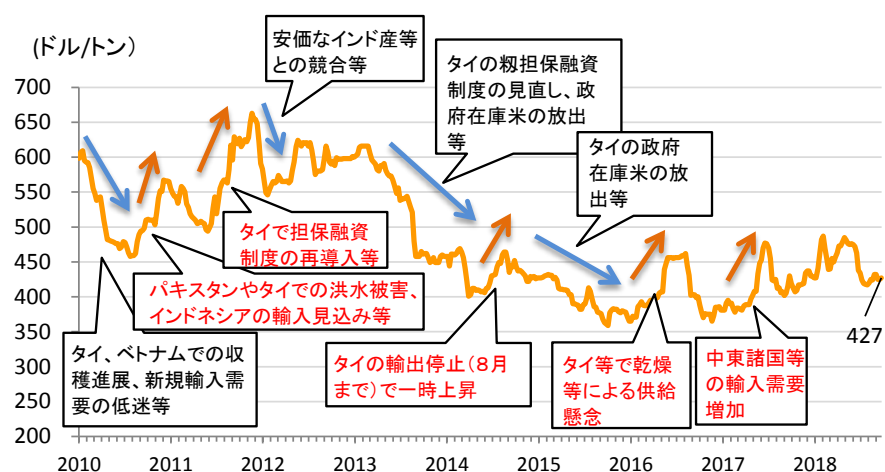
(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	486.9	491.6	487.2	▲ 0.4	▲ 0.9
消費量	482.7	482.9	488.4	0.6	1.1
輸出量	47.2	48.1	49.5	0.3	2.9
輸入量	41.3	47.9	46.7	0.1	▲ 2.4
期末在庫量	137.0	145.6	144.4	0.8	▲ 0.8
期末在庫率	28.4%	30.2%	29.6%	0.1	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)



資料：USDA「PS&D」(2018.9.12)をもとに農林水産省にて作成



注：タイ国家貿易取引委員会公表による2018年9月19日までの毎週水曜日のタイうるち精米100%2等

(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ沿いで栽培
カリフォルニア州の全米に占める生産シェアは約2割

【生育・生産動向】米国農務省（USDA）によれば、9月23日時点で、長粒種を中心に栽培しているルイジアナでは収穫進捗率は96%（前年度同期97%）。

一方、中・短粒種の主産地のカリフォルニア州では収穫が開始され、収穫率は15%と前年度同期（14%）よりわずかに進んでいる。

生育状況は9月16日時点の作柄調査の「やや良」と「良」の合計がルイジアナで73%、カリフォルニアで95%、全米でも74%と良好である。

USDAによれば、前月と比べ、単収、収穫面積とも上方修正され、その結果、長粒種、中・短粒種とも生産量が上方修正され(長粒：5.06百万精米トン、中・短粒：1.91百万精米トン)、前年度比23.1%増となった。

【需要状況】2018/19年度の消費量は、生産量の増加に伴い上方修正された。

【貿易情報・その他】輸出量は、前月と比べ、価格競争力がある長粒種は増加したが、中・短粒種でトルコ向け輸出の減少のため相殺され、変更なし。

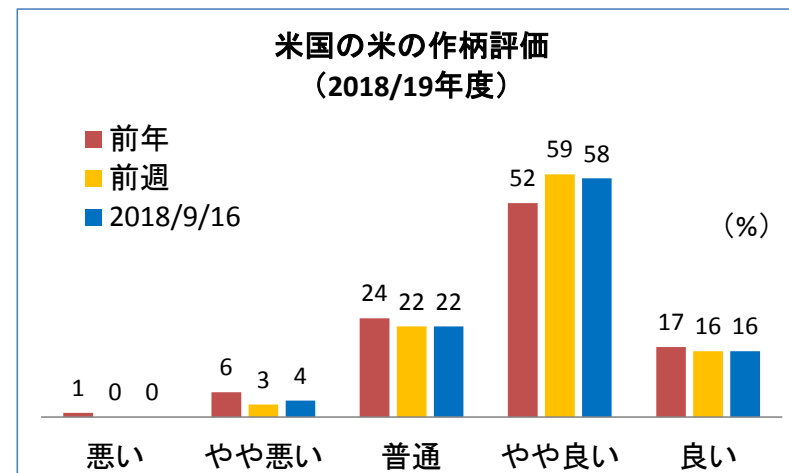
9月の精米価格は、ミシシッピ川流域の長粒種(2等4%碎米混入、ガルフ積み)が8月と比較して50ドル/トン下落し、550ドル/トン。一方、カリフォルニア産中粒種(1等4%碎米混入 精米工場渡し)も8月と比較し35ドル/トン下落し、913ドル/トン。

米－米国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	7.0	0.3	23.1
消費量	4.2	4.3	4.2	0.1	▲ 1.4
輸出量	3.7	2.8	3.1	-	12.7
輸入量	0.8	0.9	0.9	-	1.2
期末在庫量	1.5	0.9	1.4	0.03	52.7
期末在庫率	18.5%	13.2%	19.4%	0.3	6.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.17	0.04	21.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.48	0.05	0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)



資料：USDA「Crop Progress」(2018.9.16)をもとに農林水産省で作成。

< タイ > **夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】タイ政府の8月予測によれば、雨季作は、作付面積が前年度並みの9.44百万ヘクタールで、生産量は前年度比8.4%増の26.1百万トン(粳ベース)の見込みは7月と変わらず。タイ中部では9月末には収穫期を迎え、北部では10月以降、収穫期を迎える見通し。

【需要状況】USDAによれば、消費量は、前年度より減少の見込みは変わらず。

【貿易情報・その他】2011/12年度から2012/13年度にかけ実施された担保融資制度により備蓄された政府備蓄米1,691万トンのうち、売却残の27万トンについて、8月末に入札が実施され、飼料用向け等にすべて売却された。

< 中国 > **北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度**

【生育・生産動向】生育状況は、9月初旬では、一期作稲は、概ね乳熟期から成熟期を迎えている。

二期作早稲については、収穫が終了した。

二期作晩稲については、江南地区では穂ばらみ期から出穂期、華南地区では分けつ期から節間伸長期を迎えている。

USDAによれば、早期インディカ米の作付面積の減少による生産減に加え、北部と南部の降雨不足により単収が昨年より低下すると見込まれることから、前月と比べ、生産量が下方修正された。

【貿易情報・その他】農業農村部の9月公表の「農産品供需形勢分析月報」によれば、8月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3.72元/kg、4.08元/kg、4.10元/kgで、晩期インディカは前月と同価格であるが、早期インディカ、ジャポニカは前月より下落している。

米-タイ

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.2	20.4	21.2 (21.3)	-	4.1
消費量	12.0	11.2	10.2 (10.2)	-	▲ 8.7
輸 出 量	11.6	10.5	11.0 (11.2)	-	4.8
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	4.2	3.2	3.4 (3.5)	-	7.8
期末在庫率	18.0%	14.7%	16.2% (16.4%)	-	1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	11.14 (11.20)	-	4.3
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.88 (1.90)	-	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC 「Grain Market Report (23 August 2018)」 (単収は精米t/ha)

米-中国

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.0	146.0	140.8 (141.8)	▲ 1.4	▲ 3.6
消費量	141.5	142.7	143.5 (146.1)	▲ 0.5	0.6
輸 出 量	0.8	1.3	1.7 (1.8)	-	30.8
輸 入 量	5.3	5.5	5.5 (5.0)	-	0.0
期末在庫量	86.5	94.0	95.1 (73.2)	▲ 0.9	1.2
期末在庫率	60.8%	65.3%	65.5% (49.5%)	▲ 0.4	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.18	30.18	29.50 (29.45)	-	▲ 2.3
単収(もみt/ha)	6.86	6.91	6.82 (4.81)	▲ 0.07	▲ 1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC 「Grain Market Report (23 August 2018)」 (単収は精米t/ha)

< インド >

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと一般的に呼ぶ。北部はカリフ・ラビの二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】カリフ米について、モンスーンの遅れにより遅れていた作付けは8月末には回復し、前年度の作付面積を上回る見込み。

インド全土で概ね分けつ期から生殖成長期を迎えている。

USDAによれば、インド政府の第4回推計報告等により2017/18年度、2018/19年度にわたって生産量が上方修正された。

【需要状況】USDAによれば、インド政府の同報告等により生産量が上方修正されたため、消費量・期末在庫量も上方修正された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、インド政府の同報告等により生産量が上方修正されたため、輸出量が増加し、2018/19年度は史上最高の1,300万トンとなる見込み。

< ベトナム >

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】2017/18年度の夏秋作の作付面積は、前年度より2.7%減の204万ヘクタールと減少。そのうち、96万ヘクタールで収穫が完了している。単収は5.45トン/ヘクタールと前年度より増加するものの、作付面積が減少するため、生産量は1,100万トン（粳ベース）と前年度より減少する見込み。

また、雨季作及び南部の秋冬作については、生育状況は良好である。

【貿易情報・その他】輸出については、1～8月計では433万トンで前年同期比5.7%増加となった。水不足で米の生産制限を行っているエジプト向けに100万トン輸出することで合意した模様と報道されている。

価格については、9月の国内卸売価格については、概ね下落している。8月の輸出価格は、インディカ精米(破碎米5%混入)は下落(7月:517.5→8月:425ドル/トン)しているが、ジャポニカ精米(破碎米5%混入)は上昇(7月:510→8月:520ドル/トン)している。

米ーインド

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	112.9	110.0	(113.0)	1.0	▲ 2.6
消費量	95.8	98.7	99.0	(100.5)	1.0	0.3
輸出量	11.8	12.8	13.0	(12.4)	0.5	1.6
輸入量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.0	20.0	(21.0)	1.1	▲ 9.1
期末在庫率	19.1%	19.7%	17.9%	(18.6%)	0.8	▲ 1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	43.92	43.50	(44.00)	-	▲ 1.0
単収(もみt/ha)	3.74	3.86	3.79	(2.57)	0.03	▲ 1.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC 「Grain Market Report (23 August 2018)」 (単収は精米t/ha)

米ーベトナム

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.9	29.1	(28.6)	-	0.4
消費量	22.0	22.1	22.4	(22.7)	-	1.4
輸出量	6.5	7.0	7.0	(6.7)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4	(0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.3	(1.4)	-	5.8
期末在庫率	3.4%	4.2%	4.4%	(4.8%)	-	0.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.76	7.76	(7.73)	-	-
単収(もみt/ha)	5.68	5.97	5.99	(3.70)	-	0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2018)
IGC 「Grain Market Report (23 August 2018)」 (単収は精米t/ha)

(参考) 豪州の米 (主に東南部のニューサウスウェールズ (NSW) 州で中粒種を生産)

<需給>

・生産量は、灌漑用水の供給量に左右されることから、年により大きく変動があり、過去5年間でみると最小は27万トン(2015/16年度 粳ベース)、最大は82万トン(2013/14年度 同)。主産地はNSW州のマーレー・ダーリング地域。

作付けは例年10月頃で翌年3月～4月頃収穫。約8割が中粒種。その他、コシヒカリ(短粒種)や長粒種も栽培。

2018/19年度はこれから作付けが行われるが、豪州農業資源経済科学局(ABARES)9月レポートによれば、降雨不足による灌漑用水の制限から、作付面積は前年度比10%減の54千ヘクタール、生産量は55万トン(前年度63万トンより13%減:粳ベース)の見込み。

- ・消費量は2017/18年度で約40万トン(表参照)。日本食レストラン向け需要あり。業者サイトにサラダ向け等のレシピも紹介。
- ・輸出货量は2017/18年度で約30万トン(表参照)。主な輸出先は、中東、オセアニア、我が国向け等。

<価格>

単位数量当たりの総生産額は、2012年から2016年の間に200豪ドル/トン前半から400豪ドル/トンまで上昇(図参照)。

また、中粒種の平均輸出(FOB)価格は2016年5月～2017年3月まで900米ドル/トン前後で推移 (NSW州Rice Marketing Board年報(2017.10))

表：需給表 (USDA IGC)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			対前年度 増減率(%)
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更		
生産量	0.6	0.5	0.5 (0.6)	-	▲ 0.9	
消費量	0.4	0.4	0.4 (0.4)	-	2.6	
輸出货量	0.2	0.3	0.3 (0.3)	-	10.0	
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	-	
期末在庫量	0.2	0.2	0.1 (0.2)	-	▲ 36.7	
期末在庫率	34.0%	27.7%	16.6% (28.6%)	-	▲ 11.1	

(単位:百万精米トン)

(参考)
 収穫面積(百万ha) 0.08 0.06 0.06 (0.08) - 0.0
 単収(もみt/ha) 9.84 10.52 10.42 (7.20) - ▲ 1.0
 資料: USDA 「World Agricultural Production」, 「PS&D」 (12 September 2018)
 IGC 「Grain Market Report (23 August 2018)」 (単収は精米t/ha)

図 米の作付面積と単位数量当たりの総生産額の推移

